

令和 6 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画									
学校運営方針		確かな学力等を身につけさせ、人に信頼され、世の中から必要とされる人を育てる。							
三つの方針（スクール・ポリシー）									
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）		①農業や地域の課題について理解を深め、解決に向けて前に踏み出す力を育てます。 ②探究的な学びをとおして、課題に対する最適解を考え抜く力を育てます。 ③協働的な学習活動をとおして、粘り強くチームで取り組む力を育てます。							
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）		①地域や大学等と連携し、社会と関連性の深い授業を行います。 ②地域を支える人材としての志を高めるため、地域産業を理解する取組を行います。 ③農業を取り巻く社会の動きや最先端の技術を学び、実践的で専門的な知識と教養を身に付けるため、農家や企業と連携した農業教育を実践します。							
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）		①人間の生活を支える食料・農業・環境について、興味や関心の高い生徒 ②農業高校における学びの特色を理解し、将来の自己実現に向けて取り組む生徒 ③将来、地域の中核として社会を支える人材となるため、目的意識を持って意欲的に取り組む生徒							
昨年度の成果と課題		令和6年度の重点目標	具体的目標						
学校運営方針に基づき、各分掌、学年、教科等が目標を設定し、組織的・継続的に取り組むことができた。学校の課題や各部署の課題を全職員で共有し、目標の達成に向けて取り組んだ。また、学校評議員会、地域の声を聞く会、生徒・保護者アンケートを実施し、学校の課題や地域の要望を把握し、改善に努めた。次年度も校長の指導のもと、全職員が課題を共有し、学校運営に参画するという意識を持ち、組織的・継続的に「生徒に確かな学力を身につけさせ、人から信頼され、世の中から必要とされる人間へと育てる。」を目標に、全生徒が安心安全な中で知徳体を十分に伸ばせるように取り組む。		進路実現	学習指導	○安心・安全、健康に配慮した学習環境づくりを図る。 ○ICT活用と個に応じた指導や実習等により、学習意欲を高め、基礎学力の定着及び課題解決能力の向上を図る。 ○「情」「意」の情操や意欲を大切にした指導・評価を行い、基礎学力としての「知」の習得につなげることで、生徒の、真に「生きる力」を育成する。 ○個人面談等を通じて生徒理解に努めるとともに、時宜を得た適切な情報提供と進路指導を行うことで、生徒一人一人の進路実現を図る。					
			生徒指導	○基本的生活習慣を確立させ、気力・体力・知力を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。 ○授業を中心とした、全教育現場において、加茂農林高校生としての自覚と誇りを持たせる指導を行い、信頼され、必要とされる人材へと育てる。 ○教育相談を充実させ、生徒の些細な変化を見逃すことなく、全職員の協力体制のもとで、いじめ見逃しゼロ及び転退学生徒の減少に努める。					
		情報発信	学校PR	○学校ホームページを随時更新し、学校生活及び農業教育の魅力を積極的にアピールすると同時に、最新の情報提供に努める。 ○本校の特徴的な様々な教育活動や、取組内容等のPRを行うために、適切な時期、方法で説明会等を実施し、中学生・保護者及び関係者の理解を深める。					
			交流・連携	○保護者・地域との連携の強化を図る。 ○産官学協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育の充実を図る。 ○学校外の交流活動や連携事業に積極的に取り組むとともに、加茂農林高校の人材及び施設を有効活用して、地域の活性化に貢献する。 ○授業や学校行事、研究活動等を通じて地域交流を一層深め、信頼、信用、愛される学校づくりを進めるとともに、生徒の勤労観・職業観の醸成に努める。					
評価項目	具体的目標		具体的方策				評価		
〔進路実現〕	教務	授業の確保	行事の精選・調整を行い、適正な授業時数を確保する。				A		
		本校特色のPR活動	広報渉外と連携し、本校施設見学や公開授業を実施する。				B		
		基礎学力の定着	成績不振者への積極的なケアを図る。（全体指導・個別指導の時間を確保）				A		
		図書館利用の促進	専門書の充実を図る。				A	A	
			調べ学習を補助するための環境を整備する。				B		
		業務の効率化	情報機器を利用しやすいよう環境を整備する。				A	A	
			成績処理などのシステム管理や各種様式の改善などから業務の効率化を図る。				A		
	生徒支援	<生活指導> 生徒のモラルを向上させることにより、地域住民からの信頼を得られるようにする	校内巡視の実施				A	A	
			服装頭髮検査の実施				A		
			SNSトラブル防止講話およびいじめ予防教育講話の実施				A		
			あいさつ運動の実施				A		
		<交通指導> 交通マナーの徹底を図り、交通違反・交通事故の防止に努める	自転車、原付バイク利用の通学者への交通指導				A	A	
			原付バイク実技講習の実施				A		
			交通講話による交通安全教育の実施				A		
			立哨による登校時の交通マナー指導				A		
			登下校時の街頭指導の実施				B		
	生徒会	青海会活動の活性化とリーダーの育成	リーダー研修会を実施する。				A	A	
			生徒の自主的活動を活発にし、魅力ある年間行事を展開する。				A		
		魅力ある行事と実施方法の工夫	魅力ある行事と安心安全な運営を工夫する。				A	A	
			達成感のある行事を企画運営する。				A		
	進路支援	早期に将来の進路計画を確立させ、目標の実現に向けて行動できる能力を育成する。	外部講師による講演会等を実施し、生徒や保護者の進路希望実現に対する意識を高める。				B	A	A
			学年を追って、生徒の成長の度合いに応じた進路支援を行い、自らを向上させる力を身につけさせる。				A		
			総合的な探求の時間やHRの、進路支援への活用を図る。				A		
			進路情報の収集・整理・提供を行い、3学年担任団と随時情報交換を行う。				A		
							A	A	A

評価項目	具体的目標		具体的方策	評価		
〔進路実現〕	進路支援	進路目標達成のために必要となる、実践的な進路支援を充実させる。	進路担当者が中心となって立案し、副任・専攻担当を中心とした、面接や小論の個別進学支援を行う。	A	A	A
			企業見学、履歴書・面接指導等の就職試験対策を実施する。	A		
	保健環境	自己管理能力を高める健康教育の推進	健康診断等、学校保健行事の実施を通して、健康の保持増進に関する意識を高める。	A	A	A
			心身の健康に課題をもつ生徒の実態を把握し、関係者と連携して、よりよい支援を行う。	A		
			保健委員会の活動を通して、健康と衛生に関する全校生徒の自覚を促す。	B		
		ゴミの分別など環境に配慮した行動ができる能力と態度を育てる	厚生週番活動の指導を通して、校内美化と環境保全に対する生徒の意識の高揚を促す。	B		
	広報渉外	本校特色のPR活動	一日体験入学、中学校訪問を組織的・計画的に実施し、効果的な生徒募集につなげる。	A	A	A
			本校施設見学を積極的に受け入れ、本校の教育活動への理解を高める。	B		
			年間を通した学校ホームページ等による教育活動PRを実施することで、本校の教育活動への興味・関心を高める。	A		
	1学年	基本的生活習慣の確立	校則違反者に丁寧にに関わりながら、反省文をしっかりと書かせる。	A	A	A
			整理・整頓・清掃を徹底する(特に教室の黒板、廊下の私物放置には厳しく取り組む)	A	A	
			日常的な挨拶、返事、教務室等の正しい入室方法が習慣化するように指導する。	A		
			チャイム着席・集会時の整列指導等で時間厳守の感覚を身につけさせる	A		
		基礎学力の向上	学習の基本となる提出物・課題等の期限を厳守させる。	A	B	
			成績上位者及び進学希望者へ組織的な進学指導を行う。	B		
			成績不振者(欠点保有者)の基礎学力向上のための指導を組織的に行う。(座席指定・基礎力診断テスト事前事後指導)	B		
		進路意識の啓発	進路指導部と連携し、3ヶ年間の指導計画に基づき、計画的な指導を実施する。	A	A	
			学年通信に進路意識を啓発する情報を掲載する。	A		
		2学年	生活習慣・マナーの確立	服装頭髪検査を通して、高校生として清潔感のある服装・頭髪を維持する。	A	
	日常的な挨拶、返事、報告が確実に行えるよう、自ら考えさせる。			A		
	集会時の整列において、時間を厳守させるとともに、自主的な行動を意識させる。			A		
	修学旅行を通じて、異文化理解や集団行動、公共マナーの大切さを考えさせる。			A		
	各種検定・資格取得の推奨		各種検定・資格取得に積極的に挑戦するよう、教科担当等と連携して働きかけをする。	A		
	組織的な進路指導の実践		進路の選択・決定のため、一年間、計画的に進路ガイダンスや講演会等を行う。	A	B	
			個に応じた的確な進路把握のため、個別面談または三者面談を年2回以上実施する。	A		
			大学進学希望者対象の特別講習を実施し、基礎学力の向上と小論文等に対応できるよう、文章力・表現力の向上を図る。	C		
	3学年	自己実現を図るため、自主的・主体的に取り組む姿勢を喚起する。	学年集会を適宜実施して各段階の目標を明確にする。	A	A	A
			生徒との個別面談を必要な限り実施する。	A		

評価項目	具体的目標		具体的方策		評価		
〔進路実現〕	3学年	進路実現のために、進路支援部・学科と学年団との連携を密にして、全員体制で取り組む。	放課後の担任会を適宜計画し、意識や課題の共有化を図る。		A	A	A
			LHRを有効に使い、進路実現に必要な情報を提示し意識を高めるとともに、進路希望別の具体的な取り組み(進路ガイダンス、面接指導、履歴書書き、小論文指導等)を進路支援部、学年団で協力して行う。		A		
		コミュニケーション能力向上のための指導を行う。	生徒の自主的・協同的な活動(体育祭・文化祭など)を支援・成功に導くことで、コミュニケーション能力の向上を図る。		A	A	
		基本的生活習慣を確立し、さらに社会人として自律した行動が取れるように指導する。	身だしなみ(服装・頭髮)の大切さを周知し、指導を徹底する。		A	A	
			生活リズムを整え、健康管理を図ることで遅刻・早退・欠席を減らす。		B		
			外部講師を積極的に活用し、社会人としてのマナー(挨拶や礼法など)や社会人としての知識(税、選挙、マネートラブルなど)を指導する。		A		
		基礎学力の向上、および進路に応じた学力の向上を図る	大学進学希望者に向けた特別講習を定期的実施し、基礎力の向上と文章力・表現力の向上を図る。		A	A	
			担任と教科担当の情報交換を行う。		A		
			各種検定・資格取得に積極的に受検するよう、教科担当等と連携して働きかける。		A		
	国語科	国語に関する基礎学力の向上	言葉の適切な使い方の学習		A	A	A
			漢字や熟語の学習		A		
			全校漢字テストの実施		A		
			漢字検定受検の推進		A		
			ICTの活用		B		
		他者の考えを尊重する態度を養い、自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばす	意見交換・スピーチ等の実施		B	B	
			学年に応じた作文・感想文等の指導		A		
	地歴公民科	学習意欲の向上 社会事象に関する興味・関心の育成	視聴覚教材・新聞等の活用		A	A	A
			スモールグループラーニングの実践		A		
		基礎学力の向上	基礎基本に関わる知識の習得		A	A	
			成績不振者への個別指導		A		
		学習の習慣化	定期的な課題学習の実施		A	A	
			小テストの実施		B		
	数学科	基礎学力・学習環境の向上	少人数クラスの展開		A	A	A
			年間を通じて、個々に進学補習を実施		B		
			小テスト・補習などの実施		A		
		数学に対する興味・関心を持たせる	日常生活での数学の利用と本の紹介、数学検定の実施		A		
		直感力の育成	様々な教具などの使用		B		
	理科	基礎的事項の定着	小テストや課題を生徒の理解度に合わせ、適宜行う。 机間巡視や問いかけを多くし、生徒の理解度の把握に努める。		A		A
		科学的事象に対する興味、関心を育む	単元に即した実験、観察を適宜行う。 近年に整備した視聴覚教材を、積極的に活用する。		A		
		科学的な思考を養う	班ごとの活動や、協同学習により思考力を深める。		B		
	保体科	基礎体力の向上を図る。あわせて、運動能力のレベルアップを推し進め、これらを通じて社会的態度(公正・協力・責任)を育成する。	年間を通じて体力向上を目的とした導入を実施、展開では多くの活動時間を確保、まとめでは、次の授業を意欲的に活動できる目的及び目標を与える。 活動効果を具体的数値によって達成度を見る。 例) 体力テストの実施、陸上競技記録計測、持久走記録会など		A		B
		生涯を通じ健康的に行動できる資質や能力を養う。	授業体育では体育理論の内容を、保健では単元ごとに興味・理解を引き出させる。		B		
	芸術(音楽)	演奏技術の向上	順序だてた課題の提示や説明をし、歌唱力・演奏力を着実に向上させ、達成感を味わわせる。		A		A
		自ら学ぶ意欲の向上	与えられた課題・知識だけでなく、それらを活用し、自らの表現方法を模索させる。		B	B	
			視聴覚教材などを活用し、生徒の音楽に対する興味・関心を引き出し、自ら演奏や歌唱に取り組む意欲を引き出す。		A		
	英語科	基礎学力の定着を図る	少人数クラスの展開		A	A	A
			生徒間の相互支援や協働学習がより生じやすい座席を編成することで、生徒が安心して学習できる環境を整える。		A		

評価項目	具体的目標		具体的方策		評価		
[進路実現]	英語科	学習意欲を引き出す	実用英語検定等の受検を促し、補習を実施する。		A	A	A
			ポートフォリオを活用して、学びの振り返りを促す。		A		
		実践的コミュニケーション能力を育成する	パフォーマンステスト・音読テスト・課題テスト・小テストの実施		A	A	
			ALTの活用率を高める。		A		
	家庭科	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的知識や技術を習得する	基礎的・基本的なワークシート・学習ノートを活用する。		A	A	A
			安全に配慮しながら、生きる力を養うための基礎・基本となる実習を行う。		A		
		日々の生活から生涯を見通し、様々な人々と共に生きる能力と実践的な態度を育てる	協同学習を行う。		B	B	
			体験的・実践的に学べるよう実験・実習を多く取り入れる。		B		
	農業科	専攻選択と専攻運営の充実	専攻選択シラバスの活用とガイダンス科目の充実		A		A
		環境の教育、命の教育、食育の実践	各専門科目における観点別評価の研究と実践		B	B	
			校地内美化、生命尊重の教育活動、食育の推進活動		B		
		食の安全・安心教育の徹底	実習環境や車両管理など徹底し安全第一主義		A	A	
			生産物の品質を含めた付加価値の外部評価の向上		A		
	農業クラブ	農業クラブ活動を通し、農業クラブの意義(社会性、科学性、指導性)を理解する	各種行事、競技会を全校生徒対象に実施する。 生徒が各種大会で入賞できるように指導を行う。 農業クラブ活動を通して地域との関わりを深め学校をPRする。		A		A
		農業クラブ諸活動の活性化とリーダーの育成	リーダー研修を実施し、自発的自主的活動を推進するとともに、自ら企画し運営できる能力が備わるよう指導する。		A	A	
			農業クラブ活動を継続発展できるよう活動を行い、リーダーの育成を図る。		A		
	人権同和教育	生徒に人権・同和問題に対する正しい知識を持たせ、人権意識の向上をはかる。 生徒の、差別やいじめを許さない見逃さない心と姿勢を育てる。	人権だよりを発行して、教科、総合的な探究の時間、LHR等で指導を行う。		C		B
			全校生徒及び保護者対象の人権教育、同和教育講演会を開催する。		A		
			職員研修を実施し、教職員の人権意識と指導力の向上をはかる。		A		
[情報発信]	教務	本校特色のPR活動	広報渉外と連携し、本校施設見学や公開授業を実施する。		B		A
		情報の共有化と情報機器の有効活用	情報機器の管理・利用の充実を図る。		A		
	広報渉外	本校特色のPR活動	一日体験入学、中学校訪問の実施		A	A	A
			本校施設見学の随時受け入れを行う。		B		
			年間を通じた学校ホームページ等による教育活動PR実施		A		
		情報機器の有効活用	学校ホームページを適宜更新し、内容の充実を図る。		A	A	
		各種情報の集約・管理	各種情報の集約・管理を徹底し、必要に応じて迅速に提供できる体制を整える。		A		
		PTA総会の20%以上の出席	PTA役員会、評議員会を経て、充実したPTA総会を計画し、保護者の出席を促す。		B	B	
		学校、保護者の連携	PTA総会をはじめ、保護者向け公開授業、生徒の活動支援に資する研修、文化祭におけるPTA企画などを充実させ、多くの保護者から参加を募り、本校の教育活動への理解・協力を募る。		B		
	1学年	意欲的かつ目的意識を持った学校生活を送る	個別面談等を年2回以上実施する。		A	A	A
			自己理解と他者理解を結びつけて相互支援のあり方を考えるような授業(LHR,「探究」)を展開する。		A		
			学年通信を定期的に発行する。		A		
	2学年	家庭との協力体制の確立	保護者との連絡や報告を密に行う。		A	A	A
			学年通信を発行し、広報渉外や進路指導部と連携し、進路情報や行事予定などの情報を発信する。		A		
	3学年	学校と家庭との協力体制を確立する。	保護者との面談、連絡を密に行う。		A	A	A
			適宜学年だよりを発行し、進路の情報を主とした発信を行うことで家庭と連携した進路指導に努める。		B		
	農業	地域と連携した教育	産官学協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育の充実と情報発信を行う。		B		B
	農業クラブ	農業クラブ諸活動の活性化と地域との連携	農業クラブ活動を活性化させ、学校生活が充実できるよう指導し、地域から必要とされる学校を目指す。		A	A	A
			農業クラブ活動の充実と地域との関わりを深め、農業クラブ活動の情報発信と連携を行う。		A		
成果	昨年度の反省を踏まえ、各分掌・教科・学科で工夫を重ね、地域に根ざした教育活動を推進し、地元企業と連携した学習を通じて専門高校としての役割を果たした。特に進路指導では、学年・分掌・学科が連携して早期進路実現につながった。農業クラブ活動では、全国大会で最優秀賞を受賞するなど顕著な成果を収めた。今後は、適性検査の結果をもとに進学・就職のミスマッチを防ぐ指導を行うとともに、基礎学力の定着と進学希望者の学力向上、進学意識の醸成を図る。あわせて、生徒会・農業クラブの活動を通じて地域への情報発信を一層強化していく。				総合評価		
					A		